

オ 主な設備更新の計画と実績

実施期	計画	実績
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・変電所更新 ・電気室更新 ・ATC/TD装置（注）更新 ・駅舎改修（トビ、駅務室等） 	ATC/TD装置（車庫）更新 変電所（海上公園）更新
令和5年度		変電所（芝浦ふ頭駅）更新
令和6年度		ATC/TD装置（汐留駅ほか3か所）更新 電気室（お台場海浜公園駅）更新 東京ヒューマン駅ホーム建築内装改修

（注）ATC/TD装置とは、ATC（自動列車制御装置）とTD（列車検知装置）の2つの主要機能から構成されている列車を自動で安全に運行させるための信号保安装置

(2) 経営成績

ア 主要科目の推移

(単位：百万円、%)

科目	令和4年度	令和5年度		令和6年度			
		増減額	増減率	増減額	増減率		
営業収益	8,070	10,340	2,270	28.1	10,733	392	3.8
運輸収入	7,796	10,011	2,214	28.4	10,389	377	3.8
連輸連収	273	328	55	20.3	344	15	4.7
営業費	7,996	7,668	△ 327	△ 4.1	8,018	350	4.6
一連送費	4,723	4,544	△ 178	△ 3.8	4,887	342	7.5
一般管理費	295	289	△ 6	△ 2.0	362	72	24.9
減価償却費	2,573	2,417	△ 156	△ 6.1	2,368	△ 48	△ 2.0
諸税	403	416	13	3.2	400	△ 15	△ 3.8
営業利益	73	2,671	2,598	—	2,714	42	1.6
営業外収益	121	132	10	8.9	153	21	16.6
営業外費用	106	93	△ 13	△ 12.2	107	13	14.1
経常利益	87	2,710	2,622	—	2,761	51	1.9
特別利益	—	9	9	—	6	△ 3	△ 37.7
特別損失	128	93	△ 35	△ 27.4	115	21	23.5
税引前当期純利益	△ 40	2,626	2,666	—	2,652	25	1.0
法人税・住民税等	42	439	396	926.1	387	△ 51	△ 11.7
法人税等調整額	150	△ 714	△ 865	—	50	764	△ 107.0
当期純損益	△ 234	2,902	3,136	—	2,214	△ 687	△ 23.7

イ 主要経営指標の推移

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	算式
総資本事業利益率 (%)	0.2	6.8	6.6	事業利益 (注)
営業収益営業利益率 (%)	0.9	25.8	25.3	総資本 営業利益
総資本回転率 (回)	0.21	0.26	0.26	営業収益 総資本
総費用対総収益比率 (%)	100.5	74.9	75.7	総費用 総収益
インバンス・カバレッジ・レシオ (倍)	0.7	29.2	27.0	事業利益 (注) 支払利息

(注) 事業利益＝営業利益＋受取利息＋受取配当金

(3) 財政状態
ア 主要科目の推移

(単位：百万円、%)

科目	令和4年度	令和5年度		令和6年度			
		増減額	増減率	増減額	増減率		
流動資産	11,808	13,592	1,784	15.1	15,044	1,452	10.7
現金及び預金	6,431	10,953	4,521	70.3	12,156	1,202	11.0
営業未収金	525	608	83	15.9	585	△ 22	△ 3.8
未収金	1,307	1,477	170	13.0	1,647	169	11.5
その他	3,544	552	△ 2,991	△ 84.4	655	102	18.6
固定資産	26,722	25,845	△ 877	△ 3.3	25,902	56	0.2
有形固定資産	24,758	23,227	△ 1,531	△ 6.2	23,374	147	0.6
無形固定資産	809	809	0	0.0	809	0	0.0
投資その他の資産	1,154	1,807	653	56.6	1,717	△ 89	△ 5.0
資産合計	38,531	39,437	906	2.4	40,946	1,508	3.8
流動負債	5,815	5,814	△ 1	△ 0.0	6,962	1,147	19.7
短期借入金	2,120	2,093	△ 27	△ 1.3	1,987	△ 106	△ 5.1
営業未払金	6	8	2	42.6	7	△ 1	△ 16.1
未払金	3,034	2,405	△ 629	△ 20.7	4,307	1,902	79.1
その他	654	1,306	652	99.7	659	△ 646	△ 49.5
固定負債	11,495	9,501	△ 1,994	△ 17.3	7,648	△ 1,852	△ 19.5
長期借入金	10,445	8,383	△ 2,062	△ 19.7	6,395	△ 1,987	△ 23.7
退職給付引当金	942	1,007	64	6.9	1,102	95	9.4
その他	107	111	3	3.6	150	39	35.7
負債合計	17,311	15,315	△ 1,995	△ 11.5	14,610	△ 705	△ 4.6
株主資本	21,219	24,121	2,902	13.7	26,335	2,214	9.2
資本金	13,756	13,756	—	0	13,756	—	0
利益剰余金	7,462	10,364	2,902	38.9	12,578	2,214	21.4
その他利益剰余金	7,462	10,364	2,902	38.9	12,578	2,214	21.4
繰越利益剰余金	7,462	10,364	2,902	38.9	12,578	2,214	21.4
純資産合計	21,219	24,121	2,902	13.7	26,335	2,214	9.2
負債及び純資産合計	38,531	39,437	906	2.4	40,946	1,508	3.8

イ 主要経営指標の推移

(単位：%)

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	算式
流動比率	203.0	233.8	216.1	流動資産 — 流動負債
自己資本比率	55.1	61.2	64.3	自己資本 — 総資本
固定長期適合比率	81.7	76.9	76.2	固定資産 — 長期資本(注)

(注) 長期資本＝資本＋剰余金＋固定負債

-186-

第5 公の施設の指定管理者監査結果

-187-

公益財団法人東京動物園協会

第1 監査の目的
 地方自治法(昭和22年法律第67号)第199条第7項に基づき、公の施設の指定管理者について、施設の管理が、施設の設置目的及び指定管理者制度の趣旨に沿って適切に行われているかを監査する。
 あわせて、同法第199条第1項及び第5項の規定に基づき、団体に対する所管局の指導・監督が適切に行われているかを監査する。

第2 監査の対象

1 監査対象団体及び局

区分	監査の対象	実施監査期間	監査の範囲
団体	公益財団法人東京動物園協会	令和7年9月9日から 同年10月6日まで	令和5年度及び令和6年度の事業
局	建設局	令和7年9月8日及び 同年10月7日	

2 団体の概要

設立の目的	動物園及び水族園の事業の発展振興を図ることにより、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的として設立
主な沿革	昭和23年11月 財団法人東京動物園協会を設立 昭和61年10月 都の出資団体となり、恩賜上野動物園及び多摩動物公園の管理業務の一部を受託 平成18年 4月 指定管理者として、恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園及び井の頭自然文化園の飼育業務を含めた全面的な事業運営を開始 平成22年 4月 公益財団法人へ移行
事業の概要	ア 公益事業 ・飼育展示、野生生物保全等の東京都立の動物園等における管理運営事業 ・動物及び動物園等に関する教育普及、情報発信、支援協力並びに調査研究等に係る事業 イ 収益事業 ・動物園等における物品並びに飲食物販売事業 ・東京都から許可を受けて行う動物園等の付帯事業 ・その他動物園等に関連する収益事業
所在地	東京都台東区池之端二丁目9番7号
人員	役員15名(理事長1名、理事11名(うち非常勤9名)、監事3名(全て非常勤)) 常勤職員489名

3 都との関係

項目	令和7年3月31日時点の状況
財政援助等	公の施設の管理 7,024百万円 (令和5年度指定管理料) 7,435百万円 (令和6年度指定管理料)
団体区分	東京都政策運務団体
役員・職員	役員 常勤役員3名のうち都員職者2名 非常勤役員12名のうち都派遣3名
	職員 常勤職員489名のうち都派遣84名

(1) 経常収益に占める都からの収益の推移

区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
経常収益	10,378	100	10,784	100	11,781	100
都からの収益	6,989	67.3	7,198	66.8	7,745	65.7
指定管理料	6,830	65.8	7,024	65.1	7,435	63.1
その他委託料	158	1.5	174	1.6	310	2.6
その他の収益	3,389	32.7	3,585	33.2	4,036	34.3

(単位：百万円、%)

(2) 公の施設の管理運営状況

施設名 (所在地)	指定管理期間	指定管理料 (単位：百万円)		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
恩賜上野動物園 (台東区上野公園(まか))	平成28. 4. 1 ～令和8. 3. 31	6, 830	7, 024	7, 435
多摩動物公園 (日野市程久保六丁目(まか))				
葛西臨海水族園 (江戸川区臨海町六丁目)				
井の頭自然文化園 (武蔵野市御殿山一丁目(まか))				

(3) 指定管理者管理運営状況評価

施設名	評価結果	
	令和5年度	令和6年度
恩賜上野動物園	A	A
多摩動物公園	B	B
葛西臨海水族園	S	A
井の頭自然文化園	B	B

第3 監査の結果

1 運営に関する事項

公益財団法人東京動物園協会（以下「協会」という。）が行う公の施設の指定管理事業について、主に、動物園及び水族館の事業の発展振興を図ることで、動物とその生息環境についての知識を広め、人と動物の共存に貢献しているかに着目して、事業実績を確認するとともに、総勘定元帳、伝票、証ひょう等を抽出により確認するなどして監査を行った。
その結果、別項のとおり指摘事項が認められた。

(1) 主な事業実績

協会は、都が定める第2次都立動物園マスタープラン（令和2年11月。以下「マスタープラン」という。）に基づき都と協定を締結し、指定管理者として、恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園（以下「動物園」という。）を運営している。

マスタープランは、計画期間を令和3年度から令和12年度までとし、動物園は、動物の魅力的な展示により来園者を増やし、野生動物とその生息環境についての知識を広めることで、人と動物が共存できる地球環境を守るものとしている。

このためには、まず、協会が動物園を運営するに当たり、来園者数の増加を図ることが必要であるが、動物種の増加による魅力向上は、動物園の面積など施設面の制限があるほか、増加する動物種の選定についても公益社団法人日本動物園水族館協会により種の保存の観点から調整が行われるため、一定の制約がある。

したがって、来園者数の増加を図り、野生動物とその生息環境についての知識を広めるためには、動物園が飼育している動物種の本래の生態を理解できるように展示内容による対応を行うことが必要である。

ア 来園者数

来園者数の推移は、表1のとおり、コロナ禍による来園者数減から回復しつつあり、表2のとおり、小学生以下の来園者数が、恩賜上野動物園では23%前後であるのに対し、多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園ではおおむね30%台となっている。

月別の状況を見ると、表3のとおり、恩賜上野動物園・多摩動物公園・井の頭自然文化園では、酷暑による夏休み期間中の来園者の減少が目立つ一方、葛西臨海水族園では春から夏にかけての来園者数の増加が見られる。平日・休日別の1日当たり来園者数を見ると、表4のとおり、休日は平日の倍以上の来園者がある。

【表1 園別来園者数の推移】 (単位：人)

園名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和元年度 【参考】
恩賜上野動物園	525,999	565,310	3,056,589	3,264,275	3,362,664	3,479,990
多摩動物公園	422,752	398,447	781,945	802,224	884,626	871,022
井の頭自然文化園	381,250	300,670	735,926	702,922	703,873	780,012
葛西臨海水族園	336,135	429,062	1,211,312	1,260,218	1,327,855	1,268,703
合計	1,666,136	1,693,489	5,785,772	6,029,639	6,279,018	6,399,727

【表2 令和6年度小学生以下・その他別来園者数】 (単位：人、%)

区分	恩賜上野動物園		多摩動物公園		井の頭自然文化園		葛西臨海水族園	
	人数	構成比率	人数	構成比率	人数	構成比率	人数	構成比率
小学生以下	757,944	31.3, 781	313,781	18.5, 993	220,993	31.4	496,038	37.4
その他	2,604,720	570,845	77.5	64.5	482,880	68.6	831,817	62.6
合計	3,362,664	884,626	26.3, 873	703,873	20.9, 855	1,327,855	39.6, 727	40.0, 818

小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料

【表3 令和6年度月別来園者数】 (単位：人、%)

月	恩賜上野動物園		多摩動物公園		井の頭自然文化園		葛西臨海水族園	
	人数	構成比率	人数	構成比率	人数	構成比率	人数	構成比率
4月	357,282	10.6	85,535	9.7	76,855	10.9	95,933	7.2
5月	410,234	12.2	132,389	15.0	101,904	14.5	142,421	10.7
6月	254,546	7.6	59,736	6.8	49,191	7.0	106,787	8.0
7月	149,396	4.4	22,528	2.5	21,873	3.1	104,749	7.9
8月	176,275	5.2	43,207	4.9	25,825	3.7	187,659	14.1
9月	252,924	7.5	54,957	6.2	47,541	6.8	124,950	9.4
10月	340,603	10.1	111,889	12.6	78,203	11.1	121,140	9.1
11月	340,495	10.1	107,277	12.1	78,392	11.1	99,644	7.5
12月	219,506	6.5	49,382	5.6	44,090	6.3	60,024	4.5
1月	256,611	7.6	67,801	7.7	53,538	7.6	81,442	6.1
2月	251,071	7.5	65,499	7.4	54,515	7.7	91,206	6.9
3月	353,751	10.5	84,416	9.5	71,946	10.2	111,900	8.4
合計	3,362,664	100	884,626	100	703,873	100	1,327,855	100

【表4 令和6年度平日・休日別1日当たり平均来園者数】 (単位：人)

区分	恩賜上野動物園	多摩動物公園	井の頭自然文化園	葛西臨海水族園
平日	7,605	1,859	1,092	2,672
休日	15,737	4,377	4,179	6,792
年間平均	10,641	2,799	2,263	4,215

イ 飼育実績

協会は、マスタートラックに基づき、表5のとおり、園ごとに目的を定めて特徴的な展示を行っている。表6のとおり、多様な動物を飼育している。中でも、明治15年(1882年)開園で日本最古の動物園である恩賜上野動物園では、世界各地の希少種を含む292種に及び動物を飼育している。

また、都は、国内外の法律で保護されている種や、野生個体が減少し保護が必要とされる種について、第2次スズメソックス計画(平成30年10月。計画期間：平成30年度から令和10年度まで。対象種：124種)により、動物園において繁殖することを定めており、協会はこれに基づき、希少種の繁殖を行っている。令和6年度の主な繁殖実績は、表7のとおりである。

【表5 各園の展示の特徴】

園名	展示の特徴
恩賜上野動物園	子どもから大人まで、楽しみ学べる、総合的な動物園として世界各地の希少種や特徴的な種をバランスよく展示
多摩動物公園	広大な敷地を活かした無籠放養式(檻や柵を設けず、堀などを使って展示する方法)の展示と生物地理学的展示を基本とし単独飼育や群れ飼育など、種の特徴に合わせた飼育管理を行い、多くの野生動物の繁殖に寄与
井の頭自然文化園	身近に暮らす日本の野生動物の飼育展示と、子どもたちにも親しみやすい動物とのふれあいを通じた体験活動を重視
葛西臨海水族園	世界ではじめて外洋性の魚の群泳を実現したクロワグロの大水槽をはじめ、100羽を超えるペンギン、世界各地から集められた多種多様な生き物など、東京の水辺から、北極・南極を含む世界各地の多様な生物をその環境とともに展示

【表6 令和6年度園別展示動物飼育数】

類名	恩賜上野動物園		多摩動物公園		井の頭自然文化園		葛西臨海水族園	
	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数
哺乳類	88	1,046	53	495	28	358	0	0
鳥類	97	513	77	859	60	270	6	246
は虫類	66	263	5	25	8	27	2	12
両生類	27	334	7	93	10	473	7	223
魚類	7	133	5	9	39	1,743	457	13,046
無脊椎動物	7	56	95	14,750	16	419	499	26,291
合計	292	2,405	242	16,231	161	3,290	971	39,818

【表7 令和6年度主な繁殖状況】

園名	動物名	出産・孵化数			備考
		オス	メス	不明	
恩賜上野動物園	ワオキツネサル	1			1
	ユビトカバ	1			1
	マヌルネコ	1	2		3
	ライチョウ	2	4		6
多摩動物公園	カリカケス	1	3		4
	アマールトラ	1			1
	ニホンコウノトリ	1			1
	ヨーロッパフタミズナミ	10			23
井の頭自然文化園	アジアスイギユウ	1			1
	インドオオヤク	1			1
	コソジロヤドリ	1			2
	ニホンカモシカ	1			1
葛西臨海水族園	アザミトグネズミ	2	2		4
	ユサギ	2	1		3
	クロツラヘラサギ	1			1
	ミニミイロトビペンギン	4	4		8
井の頭自然文化園	カミイガラス	1			1
	フェアリーパーペンギン				6
	ツンボルトペンギン		1		2
	エトペリカ				2

(2) 運営に係る収支
 指定管理業務に係る収支は、表8のとおりであり、金額の増加は物価の上昇に伴うものである。

【表8 動物園の運営に係る収支の状況】

区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
東京都受取委託料	6,830,872	99.9	7,024,115	100.0	7,435,278	100.0
受取利息	2	0.0	3	0.0	186	0.0
その他収益	8,717	0.1	1,429	0.0	34	0.0
収益計	6,839,591	100	7,025,547	100	7,435,499	100
人件費	2,348,165	34.1	2,378,242	33.6	2,736,351	35.9
水道光熱費	954,231	13.8	865,259	12.2	845,034	11.1
飼料費	437,573	6.4	473,262	6.7	492,248	6.5
その他事業費	2,950,673	42.8	3,148,085	44.5	3,321,007	43.6
管理費	199,920	2.9	214,093	3.0	226,308	3.0
費用計	6,890,564	100	7,078,944	100	7,620,949	100
損益	△ 50,972		△ 53,396		△ 185,450	

(単位：千円、%)

2 指摘事項
 (1) 団体

ア 展示改善等について

協会は、第2次都立動物園マスタープラン（令和2年11月。以下「マスタープラン」という。）に基づき、都立動物園の運営を行っている。

マスタープランでは、レクリエーション・環境教育・種の保存・調査研究を動物園の4つの機能としている。

このうち、レクリエーションの場として魅力的な展示を行うとともに、環境教育の場としては、来園者が動物の生態や生息環境を理解し、地球環境について考えるきっかけを与えることとしている。これらを実現する具体的な方策として、マスタープランでは、展示施設や飼育環境を本来の生息環境に近づけるよう改善（以下「展示改善」という。）すること、来園者にとっては展示の魅力の向上とともに、生態と生息環境の理解につながるから、展示改善を行うとしている。

また、種の保存の場としては、動物が健康に暮らし、適切に繁殖し、個体群が維持されていくために、より良い施設、より良い管理を行うことで、アニマルウェルフェア（動物福祉）の向上（以下「エンリッチメント」という。）を図っている。エンリッチメントは、展示施設や飼育環境を本来の生息環境に近づけるよう改善することで飼育動物の本来持っている行動や能力を引き出すもので、結果的に、展示改善と同様に、来園者にとって魅力的な展示と生態・生息環境の理解につながるものとしている。

さらに、マスタープランでは、アニマルウェルフェア（動物福祉）とは、飼育している個体が幸せであると主観的に感じる状態で、①栄養・②環境・③健康・④行動の4つの身体的状態と①から④の結果もたらされる⑤精神的状態より決まるもので、世界動物園水族館協会が定める「5つの領域モデル」（身体的精神的状态を客観的に判断するためのチェックリスト）により客観的な現状を評価する必要があるとしている。



協会は、これらマスタープランに基づき、表9及び表10のとおり、展示改善及びエンリッチメント（以下「展示改善等」という。）を行っている。

【表9 展示改善及びエンリッチメントの実績】

園名	展示改善		エンリッチメント	
	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
恩賜上野動物園	8	19	124	129
多摩動物公園	13	11	101	117
井の頭自然文化園	6	13	16	27
葛西臨海水族園	3	8	7	9
合計	30	51	248	282

(単位：件)

【表10 展示改善・エンリッチメントの例 (協会事業報告書・協会WEBサイトより抜粋)】

<p>展示改善 (展示施設や飼育環境を本来の生息環境に近づけるよう改善)</p> <p>アンリッカゾウの放飼場に赤土の土山を設置した。気温の高い日などは土に水を含ませることで、泥浴びを行うようになり、泥浴びの様子を見せられるようになった。</p> 	<p>アカハライモリの繁殖展示 (井の頭自然文化園、令和5年度)</p> <p>水生動物維持展示「いもり字にゆうもん」の開催にあわせて、アカハライモリの生息環境を模した水槽を展示し、上陸直後の幼体を含む生体展示により、本種を育む環境について普及啓発した。</p> 	<p>インサンゴに適したLED照明の設置 (葛西臨海水族園、令和5年度)</p> <p>「サンゴ礁の海」水槽に、インサンゴの飼育に適したLED照明を設置したことにより、より状態の良いインサンゴを展示できるようにした。</p> 	<p>エンリッチメント (動物の栄養・環境などを改善してウェルフェア (動物福祉) を向上)</p> <p>ヌトラトラの採食エンリッチメント (恩賜上野動物園、令和6年度)</p> <p>正肉2kgを与えた時は10分弱の採食時間であるのに対して、同量の毛皮付き鹿肉を与えた場合には約20分と増加を確認した。採食行動は、「毛皮を口で剥ぐ」「前後で鹿肉を押しさえる」「骨から肉を噛みちぎる」などが確認され、レパートリーが増加した。</p> <p>https://www.youtube.com/watch?v=XKJdU1Lz2w0</p> 	<p>夏季のミニミオクトビベンギンの運動量増加 (葛西臨海水族園、令和5年度)</p> <p>ミニミオクトビベンギンの行動解析結果を基に、夏季の屋内収容中でも一時的に放飼場に放飼し、運動量の増加を図った。</p> 	<p>ネズミ類への青草給与 (井の頭自然文化園、令和5年度)</p> <p>資料館の野ネズミ類に青草を給与して、休息行動や巣作り行動を引き出した。</p> 
--	--	--	---	---	--

- (ア) 魅力的な展示の実現に向けて展示の改善に取り組みべきもの
- 展示改善等を実施するに当たっては、①動物の種ごとにさまざまな本来の生息環境と生態に係る知見を集め、達成すべき飼育環境を目標として定めるとともに、②現状の飼育環境を客観的に評価して、③不足しているものについては、現在の飼育舎において達成できる展示改善等と飼育舎の改修・改築時に飼育舎が備えるべき条件を明確にする必要がある。
- しかしながら、各園のいすれも、飼育担当は、動物の生態に係る知見や他動物園での飼育技術に係る知見を集積しているとしているもの、
- ① 一部の希少種を除き、種ごとに達成すべき飼育環境を目標として定めていない
 - ② アンリアルウェルフェア (動物福祉) に係る種ごとの現状について評価を行っていない

③ 現在の飼育舎において達成できる方策と飼育舎の改修・改築時に飼育舎が備えるべき条件について明確にしていない

状況のまま、協会は展示改善等を行っており、計画的なものとなっていない。

協会は、ウェルフェアに定める魅力的な展示の実現に向けて、動物種ごとの目標を定め、それを達成する方策を明確にした上で、展示改善等に取り組みたい。

(公益財団法人東京動物園協会)

(イ) 来園者が展示改善等の内容や意義について情報を見られるよう改めるべきもの

ウェルフェアについては、展示改善等を行うことで、来園者が動物の生態や生息環境を理解し、地球環境について考えるきっかけを与えるものとしている。

これら展示改善等は、飼育担当の専門知識に基づき行われているもので、来園者は改善された展示やエンリッチメントを視察しても、その意義を理解できるとは限らないものである。

例えば、恩賜上野動物園のキリン舎について見ると、図1のようなエンボラ式給餌器を使用する展示改善等を行っているが、観覧場所には解説がなく、エンボラ式給餌器がキリンの生態にどのような意味を持つかを理解することは困難である。

このことについて、恩賜上野動物園は、展示や動物を飼育職員が解説するキーンブーストリークなど、表11の園内プログラムで触れているとしているが、これらを利用できるのは来園者の一部である。また、都立動物園のWEBサイト「東京ズーネット」には、図1のとおり、平成29年の多摩動物公園のニュースとして掲載されているものがあるが、特定のキーンロードで換気して閲覧できるページであり、確実に閲覧できるものとは言えない。

一方で、多摩動物公園のキリン舎においては、同様のエンボラ式給餌器について、キリン舎近辺に解説サインを整備している。

そこで、令和5年度及び令和6年度の展示改善81件及びエンリッチメント530件について見ると、協会は、解説サイン等により現地で来園者が確認できるようにしている展示改善等は、表12の1件のみであるとしている。

ウェルフェアにおいて、来園者が動物の生態や生息環境を理解し、地球環境について考えるきっかけを与えることを動物園の機能のひとつであるとしていることから、生態や生息環境の理解に必要な解説がどのようなものか考え方を定めた上で、解説を整備すべきところであるが、協会はこれを行っておらず、環境教育の場としての動物園の機能を十分に発揮できない状況となっている。

協会は、飼育舎前等に二次元コードなどでURLを掲示してWEBサイトを案内するなど観覧の支障とならない方法により、来園者が展示改善等の内容や意義について情報を見られるよう改められたい。

(公益財団法人東京動物園協会)